

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 長野県中野西高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒383-8511 長野県中野市西条 544-1
E-mail nakanishi-hs@pref.nagano.lg.jp
Website http://www.nagano-c.ed.jp/inuwashi/
幼児児童生徒数 男子 319 名 女子 384 名 合計 703 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「教育基本法」の精神にのっとり、平和的な国家・社会の有為な形成者を育成し、敬と愛と信とに満ちた学園を創る」を学校目標としている。UNESCO が掲げる ESD (持続可能な開発のための教育) の実践を通して、生徒の人間性・コミュニケーション力を磨き、「自ら問題意識を持ち、行動できる」生徒を育てること、地域社会や国際社会に目を向け、学校の中にとどまらない幅広い視点で活動することによって、生徒の社会性・国際性を養うことを教育目標としている。

具体的には、環境教育、地域連携、異文化理解を柱に、①地域の自然環境を保護する活動②地域社会と協働した活動③異文化理解を深める学習④地域を学び地域の美化に努める学習を行った。

① 地域の自然環境を保護する活動

学校近くの中野市西条地区を流れるホタル川を環境を整備し、ホタルの生息地を守る活動や、中野市の一本木バラ公園のバラ園の手入れ(草取りや冬囲い)、山ノ内町志賀高原での植樹活動「ABMORI」への参加と植樹後のモニタリング調査、志賀高原の高天原湿原の再生を目指す清掃活動への参加など、生徒達が地域の自然環境を守る担い手であるという意識を育成している。

② 地域社会と協働した活動

中野市で行われる春と秋の「一本木公園バラ祭り」のボランティアスタッフとして、本校の生徒達が多く関わっている。また、中野商工会議所青年部の方々との協働事業として、中野市の「ジョンジョン祭り」で、生徒有志が自分達で開発した新商品の販売ブースを設けて、祭りの活性化に貢献した。さらに、中野の食文化を広めるイベント「おごっそフェア」で、生徒の有志団体が新たに開発した「おやき」2種類を販売するブースを出店してイベントを盛り上げるなど、地域の文化活動の担い手としての意識を育成している。

③ 異文化理解を深める学習

オーストラリアや台湾からの学校訪問団の受け入れを行い、その際に日本や長野県の風土・文化を紹介する中で、自国と他国の文化的共通点や相違点、また異文化交流の大切さを学ばせている。また、「福島スタディツアー」(研修旅行)では、ブリティッシュヒルズでの英語研修・英国様式のマナー研修を受け、外国人との交流に積極的に取り組む意識を生徒達に持たせている。

④ 地域を学び地域の美化に努める学習

本校創立時から続いている学校行事のCOL(クリーン・オリエンテーリング)を通じて、地元中野市内をゴミ収集しながら指定されたポイントを巡り、各ポイントに用意されたクイズを解きながら地域の歴史や文化を学ぶとともに、地域の環境美化に努めている。この取り組みを通じて、郷土に対する知識を深めると同時に、地域の美化に貢献することで、生徒達の郷土愛を育んでいる。



①の写真 (ABMORIでの植樹活動)



②の写真 (おごっそフェアのおやき開発)



③の写真 (福島スタディツアー)



④の写真 (クリーン・オリエンテーリング)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(将来、地域社会の核として活躍してくれる意欲)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等(研修旅行)	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(休日に行われる環境保護活動や地域イベントへの参加)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none">・ ESD (持続可能な開発のための教育) 推進の手引(初版) 日本ユネスコ国内委員会・ 文部科学省 日本ユネスコ国内委員会のwebサイト 持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development) http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339957.htm・ 文部科学省 ESDポータルサイト http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/・ 国際連合広報センターのwebサイト Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「総合的な学習の時間」において、本校独自の行事であるCOL(クリーンオリエンテーリング)の意義や、地元中野市の歴史や自然環境についての学習を行っている。また、新入生に対しては、本校がユネスコスクールとして取り組んでいるESD活動の概要について、総合的な学習の時間で行われるオリエンテーションの際に説明をしている。

また、1月下旬に「ユネスコウィーク」という週間を設け、朝のESD放送(生徒が企画する異文化理解を深める外国語を交えた全校放送)、ESDに関係する授業(教科横断型授業などのアクティブラーニングや外部講師を活用した授業など)、ESDに関係するセミナーの開催等、集中的にESDを体感する期間を設けて、ESDについての興味・関心を高める取り組みを行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内の校務分掌に「ユネスコ委員会」(委員14名)という組織を位置づけ、環境教育・地域連携・異文化理解という3つのチームに分かれて、それぞれが企画立案・活動実践を行っている。

生徒については「ESDクラブ」を発足させ、部活動として継続的に活動に取り組む生徒を増加させている。また、それ以外のクラブ(運動系クラブなど)もESD活動を部活動の一環として位置づけ、年に複数回、ESDに関わるボランティア活動に部活単位で参加する体制を作っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校自己評価の教育目標の中に、「ユネスコスクールの理念に基づいた教育」を位置づけており、校内の職員がその達成度について評価している他、学校評議員をお願いしている外部の方々から、定期的な評議員会において意見をもらっている。その中で、実際に活動に参加した生徒達から、校内の職員や生徒を前に、活動を直接報告するような場面があまりないことを指摘されている。次年度においては、終業式など全校の生徒・職員が集まる場で、生徒達が活動報告をする場を設けたいと考えている。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

イヌワシ通信(中野西高校の校外向け通信)やHPなどで、本校がユネスコスクールとして取り組んでいるESD活動を、地域社会や近隣の中学校に発信している。また、昨年度は「中野市若者会議」に定期的に参加し、本校がユネスコスクールとしてESD活動に取り組んでいることを伝えた。その成果として、今年度は中野商工会議所青年部とイベントなどで協働することができた。例えば「中野ションション祭り」や「おごっそフェア」において、生徒の有志団体が出店という形で参加する機会に繋がった。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

地域コミュニティでは、中野市の「西条地区ホテルの会」「一本木公園バラの会」「ABIMORI実行員会」「志賀高原高天原やなぎらの会」などの団体と協働している。また、2月に信州大学教育学部で行われた「信州ESDコンソーシアム」では、中野商工会議所青年部と本校生徒の有志団体「おごっそクラブ」のメンバーが共同で成果発表を行った。新作おやきを開発して「おごっそフェア」(中野の食の祭典イベント)でおやき店を出店し販売したことについて報告し、好評であった。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

今年度、台湾の前鎮高級中学との姉妹校提携を結んだことを足掛かりに、今後は国外のユネスコスクールと交流できる機会を作りたいと考えている。また、3月上旬に実施した「福島スタディツアー」では、ブリティッシュヒルズにおいて外国語・異文化研修をただだけでなく、被災地についての学習を深めるため、現地のユネスコスクールを訪問して被災地のことについてお話を聞くような交流プログラムを検討・模索したが、残念ながら実現は叶わなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域の環境保護団体や商工会議所の方々との協働事業を通じて、生徒達は「自分達も地域社会の環境保護や文化活動の担い手としての責務を果たしている」と強く感じるようになった。このような経験から、「将来は地元に戻って地域活性化に関わる仕事をしたい」という意識を持つ生徒が増えている。また、異文化理解を深める教育に刺激を受け、長野県が募集する「未来塾ながの」というフィリピンへの派遣プログラムに応募する生徒が増え、2年連続で本校生徒が長野県の代表団に選抜されている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

環境保護教育では、「中野市西条地区ホタル川の清掃とカワナ放流」「中野市一本木バラ公園の整備」「志賀高原ABMORI植樹活動とモニタリング調査」「志賀高原高天原湿原再生イベント」への参加を予定している。地域社会との協働として、「一本木公園バラ祭り」の運営ボランティアスタッフ、「中野ションション祭り」のボランティアスタッフ、「おごっそフェア」での出店を予定している。

異文化理解教育では、台湾の高級中学校の訪問団受け入れを始め、海外からの訪問団の受け入れを予定している他、本校生徒が学校外で行う研修プログラムとして、今年度実施した「福島スタディツアー」「台湾の姉妹校訪問と台湾文化の学習ツアー」「マレーシアにおける環境学習と異文化理解教育ツアー」のいずれかの実施に向けて、検討している。

更に、これまで課外活動が中心であった本校のESD活動を、総合的な学習の時間などを活用して、教育課程内でも位置づけられるよう計画していく予定である。